

「吹き戻し」を用いた呼吸訓練の効果の判定に関する共同研究への参加のお願い

長崎嚥下リハビリテーション研究会
代表 山部一美
長崎医療センター脳神経外科
高畠英昭

私たちの研究グループは長崎嚥下リハビリテーション研究会・長崎医療センターの医師・歯科医師を中心とした研究グループです。長崎嚥下リハビリテーション研究会は長崎県北地域の複数の病院・医療施設による研究会で嚥下障害への対応を中心に長年活動を行っています。

本臨床研究は、高齢者を対象に老人保健施設をはじめとする多施設が参加して実施されています。私たちの研究グループは、患者さんに対し最新の治療を提供するとともに、さらに効果の優れた治療法の開発を試みています。新しい治療法を開発するために行われるのが「臨床研究」です。患者さんに参加していただいて治療法の有効性や安全性を調べる臨床研究により新たな治療法を確立することは医療従事者の使命であり、患者さんのご協力により成し遂げることができるものです

I 研究課題:

高齢者の呼吸機能および嚥下機能における「吹き戻し」を用いた呼吸訓練の効果について

II 研究テーマ:

高齢者における呼吸機能・嚥下機能低下に関連した誤嚥性肺炎発症予防を目的とした呼吸訓練法を開発する。

III 研究の目的および意義:

肺炎は脳卒中を抜いて日本人の死因第3位となった。死亡の原因となる肺炎の主なものは65歳以上の高齢者におこる誤嚥性肺炎である。嚥下障害や誤嚥性肺炎は高齢者に高頻度に認められるが有効な予防のための訓練法は確立されていない。

「吹き戻し」(別名:巻きどり、ピロピロ笛、party blowouts など)は日本の伝統的なおもちゃであるが小児喘息における呼吸訓練にも使用されており、最近では高齢者の呼吸訓練にも老健施設をはじめとする様々な施設で応用されている。本研究の目的は「吹き戻し」による呼吸訓練が高齢者の呼吸機能・嚥下機能に及ぼす影響を科学的に検証することである。

誤嚥性肺炎は高齢者の生活機能を著しく低下させる。薬剤に頼らない誤嚥性肺炎の予防法が開発されれば、超高齢化を迎える日本において、高齢者の機能予後を改善させ、高齢者医療費を大いに抑制できることが期待される。

IV 研究計画:

研究仮説:「吹き戻し」を用いた呼吸訓練を行うことで高齢者の呼吸機能および嚥下機能が改善する。

調査を行う場所:研究参加協力を要請している老健施設。

研究期間:2012年10月1日～2014年3月31日(予定)

研究デザイン:二重盲検群ランダム化比較試験

対象者:上記研究期間中に研究参加施設に入所している65歳以上の高齢者

観察項目:最長発声持続時間(Maximum phonation time, MPT)、100-ml water swallowing testにおけるswallowing speed、認知機能(Mini-Mental State Examination (MMSE))身体機能(Barthel Index (BI))

V お問合せ & 参加申込:

直接、山部歯科医院へお願いします。

〒859-6101 佐世保市江迎町長坂 180-9 Tel0956-65-2101 Fax03-6893-8826

Mail:yamabe@swallow-web.com